

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	科学と人間生活	2	必修科目	1年	
使用教科書	科学と人間生活(数研出版)			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	身の回りの現象を科学的にとらえる視点を持つために、授業内容に沿った問題演習に取り組む。 適切な実験手法を身につけて、分析力、考察力を養うために、実験・観察を行う。基礎的な計算を身につけるため、科学的な現象を量的に扱う。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、授業の取り組みや定期考査、課題テスト、課題提出状況などを総合的に評価します。	
担当者から	プリントを中心に授業を進めます。授業時間を大切に、自宅での問題演習にも挑んでください。問題に取り組んだ分だけ実力が向上します。物理・化学・生物・地学各分野の基礎的な知識と実験技術の定着を目指します。基礎的な計算力も身につけましょう。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	1 科学技術の発展		科学技術の発展と人間生活のかかわりを知る。										科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現している。	科学技術の発展に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	年4回の定期考査 実験の際のレポート 小テスト ノートの記載内容 などを元に評価する。	
5	2 人間生活の中の科学	ア 光や熱の科学	熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存などについて理解する。										光や熱の科学を日常生活と関連付けて、熱の利用と性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。	光や熱の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
8		イ 物質の科学	身近な材料に関する観察、実験などを行い、身の回りの物質の種類、性質などを理解する。										物質の科学を日常生活と関連付けて、材料とその再利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。	物質の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
10		ウ 生命の科学	ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、生命現象を人間生活と関連付けて理解する。										生命の科学を日常生活と関連付けて、ヒトの生命現象および微生物とその利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。	生命の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
11			微生物や植物に関する観察、実験などを行い、動植物のはたらきを人間生活と関連付けて理解する。														
12		エ 宇宙や地球の科学	自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて理解する。										宇宙や地球の科学を日常生活と関連付けて、自然景観と自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。	宇宙や地球の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
2	3 これからの科学と人間生活		これからの科学と人間生活について認識を深め、科学的に考察する。										これからの科学と人間生活との関わり方について理解している。	これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現している。	これからの科学と人間生活に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	物理基礎	2	選択科目	2年	
使用教科書	高等学校 考える物理基礎(啓林館)			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
学習方法	プリント学習を基本にして、具体的な問題を解き理解を深める。 公式に出てくる文字と物理的概念の対応を理解し、公式を駆使できるようにする。実験を通じて、物理現象を実感する。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、授業の取り組みや定期考査、課題テスト、課題提出状況などを総合的に評価します。	
担当者から	プリントを中心に授業を進めます。授業時間を大切に、自宅での問題演習にも挑んでください。問題に取り組んだ分だけ実力が向上します。実験の際には、内容に応じた独自の工夫を求めます。日常生活に絡めて物理現象を理解しましょう。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	1 物体の運動とエネルギー	ア運動の表し方	平均の速度、瞬間の速度、等速直線運動の意味を理解する。	○	○		○						運動の表し方を日常生活や社会と関連付けながら、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	運動の表し方について、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方における規則性や関係性を見いだして表現している。	運動の表し方に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	年4回の定期考査実験の際のレポート小テストノートの記載内容などを元に評価する。
5			等加速度直線運動の公式に習熟する。	○	○		○									
6			加速度の概念を理解し、等加速度直線運動の公式に習熟する。	○	○		○									
7	イ様々な力とその働き		力の概念の理解と力がベクトル量であることを理解する。	○	○			○				様々な力とその働きを日常生活や社会と関連付けながら、様々な力、力のつり合い、運動の法則、物体の落下運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	様々な力とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、様々な力とその働きにおける規則性や関係性を見いだして表現している。	様々な力とその働きに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
7			さまざまな力のあり方と、それらの性質を知る。	○	○				○							
8			運動の3法則の繋がりを理解する。	○			○	○								
9			実際の物体の運動を運動方程式を用いて求める。	○			○	○								
9			2体問題など複雑な系の運動方程式を立てて、それを解く。	○	○		○									
10	ウ力学的エネルギー		物理における力のする仕事の意味を理解する。	○	○		○				力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	力学的エネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現している。	力学的エネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
10			物体にした仕事は運動エネルギーという概念で捉えられることを理解する。	○	○			○								
10			重力など力の働く場において位置によってエネルギーが考え得ることを理解する。	○	○				○							
11			保存力の場合には力学的エネルギーが保存することをを用いて問題が解ける。	○				○	○							
11	2 様々な物理現象とエネルギーの利用	ア熱	温度と熱量の関係を理解する。	○	○			○			熱を日常生活や社会と関連付けながら、熱と温度、熱の利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	熱について、観察、実験などを通して探究し、熱における規則性や関係性を見いだして表現している。	熱に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
11			エネルギーの一種としての熱量を理解する。	○			○	○								

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	化学基礎	2	必修科目	2年	
使用教科書	高等学校 化学基礎(数研出版)			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法	科学的な用語が多く登場し、また、複雑な計算が出てきますから、新しい概念をしっかりと理解することが必要となります。 高校理科は現象よりも量的な側面を重視した内容です。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもまえ、授業の取り組みや定期考査、課題テスト、課題提出状況などを総合的に評価します。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																	
担当者から	化学は身近にある様々な物質と関連しているため、現代に生きる人間としての常識としても重要です。 数値計算が多く出てきますから、授業で十分な理解ができるよう日々の復習にも励んでください。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	1 化学と人間生活	ア化学と物質	化学の特徴について理解する。	○	○		○						化学と物質について、化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学と物質について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	化学と物質に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	定期考査 実験の際のレポート 小テスト ノートの記載内容 などを元に評価する。	
			物質の分離や精製について実験方法などを身に付ける。	○	○		○										
			単体、化合物について理解する。	○	○		○										
			粒子の熱運動と温度との関係、三態変化との関係を理解する。	○	○		○										
7	2 物質の構成	ア物質の構成粒子	原子の構造及び、陽子・中性子・電子の性質を理解する。	○	○			○					物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の基本的な概念や原理・法則などを理解している。	物質の構成粒子について、規則性や関係性を見いだして表現している。	物質の構成粒子に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
			元素の周期律及び、電子配置と周期表を理解する。	○			○	○									
9		イ物質と化学結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。	○	○			○					物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	物質と化学結合に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
			イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。	○	○				○								
10			共有結合を電子配置と関連付けて理解する。	○	○			○									
10			分子からなる物質の性質を理解する。	○	○				○								
11			金属の性質及び金属結合を理解する。	○	○				○								
11	3 物質の変化とその利用	ア物質と化学反応式	物質と粒子数・質量・気体の体積との関係について理解する。	○	○	○							物質と化学反応式について、物質質量、化学反応式の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	物質と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
			化学反応に関する実験を行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。	○	○			○									
1		イ化学反応	酸や塩基に関する実験を行い、性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	○			○	○					化学反応式について、酸・塩基と中和、酸化と還元の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
			酸化と還元が電子の授受によることを理解する。	○	○				○								

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	物理	4	選択科目	3年	
使用教科書	高等学校 改訂 物理(第一学習社)			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法	演習問題を中心に、より具体的な理解を促す。 演習実験を取り入れ、複雑な現象の理解の一助とする。問題演習を中心とした復習を欠かさず、定着を図る。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもとに、授業の取り組みや定期考査、課題テスト、課題提出状況などを総合的に評価します。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																		
担当者から																			

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8			
4	1章 運動とエネルギー	第1節 平面運動と放物運動	1 平面運動	○	○			○					物理基礎で培った知識を基に相対速度、平面上の運動の表現方法を学習する。 水平投射、斜方投射について運動を理解する。 力のモーメントの概念を理解し、物体に働く力のつり合いについて学習する。 重心の求め方について、計算と実験から考える。 運動量と力積の概念を理解する。 運動量保存則を理解し、その応用方法に習熟する。 反発係数による運動の違いの特徴を見出す。 典型的な物体の運動として、円運動を学ぶ。 観測者の立場を理解し、それぞれの現象を物理学的に説明する。 運運動から単振動へ、立場の転換を行う 万有引力の法則を使ってさまざまな事例に適用する。 波の波長、振動数、周期などの基本量を通して波という現象を理解する。 波の代表として、音の特徴を知る。 ドップラー効果を身近な現象としてとらえ、計算を理解する。 光を波としてとらえ、その特徴を理解する。 レンズの種類による同一点と異なる点を説明できるようになる。 光の回折現象について、その原理を説明できる。 電気現象の基礎的な考え方を理解する。 コンデンサーの基本原理を理解し、回路を考える。 電流回路における電気抵抗の役割について理解する。 複雑な直流回路の計算を身につける。 半導体の特徴と名称について理解する。 磁場という概念を知り、現象の説明に役立てる。 電場と磁場の関係をより詳しく理解する。 磁場による電磁誘導の現象を説明できる。 交流の特徴とその利点について理解し、発電方法を学ぶ。 電磁波の種類を学び、波としての特徴を理解する。 電子を物質だけではなく波としてとらえ、物理現象を理解する。 光を物質としてとらえ、物理現象を理解する。 X線を用いた原子物理学現象を理解し、説明できるようになる。 広く粒子を波としてとらえ、その特徴を説明できるようになる。 現代物理学の最先端について具体的な例をいくつか学習する。	定期考査 または授業内考査 実験の際のレポート 小テスト ノートの記載内容 などを元に評価する。
4			2 放物運動	○	○					○				
4		第2節 剛体のつり合い	1 剛体にはたらく力とその合力	○	○	○								
5			2 剛体の重心とつりあい	○	○		○							
5		第3節 運動量の保存	1 運動量と力積	○	○	○								
5			2 運動量保存の法則	○	○		○							
5			3 反発係数	○	○		○							
6		第4節 円運動と単振動	1 円運動	○	○			○						
6			2 慣性力と遠心力	○	○	○								
6			3 単振動	○	○	○								
7			4 万有引力による運動	○	○					○				
7		2章 波動	第1節 波の性質	1 正弦波	○	○	○							
8				2 波の伝わり方	○	○	○							
8			第2節 音波	1 音の伝わり方	○	○			○					
9	2 ドップラー効果			○	○			○						
9	第3節 光波		1 光の性質	○	○			○						
9			2 レンズと鏡	○	○			○						
9			3 光の回折と干渉	○	○			○						
10	3章 電気と磁気		第1節 電場と電位	1 電場	○	○			○					
10				2 電位	○	○			○					
10		3 コンデンサー		○	○	○								
10		第2節 電流	1 電流と電気抵抗	○	○					○				
11			2 直流回路	○	○			○						
11			3 半導体	○	○	○								
11		第3節 電流と磁場	1 磁場	○	○					○				
11			2 電流が磁場から受ける力	○	○					○				
12			3 ローレンツ力	○	○			○						
12		第4節 電磁誘導と交流	1 電磁誘導	○	○			○						
12			2 交流	○	○					○				
12			3 電磁波	○	○	○								
1	4章 原子	第1節 電子と光	1 電子		○			○	○					
1			2 光の粒子性		○			○	○					
1			3 X線		○			○	○					
1			4 粒子の波動性		○			○	○					
1		第2節 原子と原子核	1 原子の構造		○			○	○					
1			2 原子核と放射線		○			○	○					
1			3 核反応とエネルギー		○			○	○					
1			4 素粒子と宇宙		○			○	○					

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	化学	4	選択科目	3年	
使用教科書	新編 化学(数研出版)			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法	プリント学習を基本にして、具体的な問題を解き理解を深める。各元素の持つ性質を理解し、それらからできる化合物について化学反応式を理解する。 いろいろな作業を通じて実感できる学習方法をとる。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもとに、 考査の成績、課題やレポートの取組状況、授業への参加態度などから総合的に評価。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																		
担当者から																			

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8			
4	第1編 物質の状態	第1章 粒子の結合と結晶の構造	原子とイオン	○	○	○							化学基礎で履修した内容を元に、原子間結合の種類と結晶の種類・特徴を理解する。 考査 実験の際のレポート 小テスト ノートの記載内容 などを元に評価する。	
4			イオン結合とイオン結晶	○	○	○								
4			分子と共有結合	○	○	○								
4			共有結合の結晶	○	○				○					
4			金属結合と金属	○	○				○					
5		第2章 物質の三態と状態変化	粒子の熱運動	○	○	○								温度や圧力を熱運動モデルを用いて説明できる。
5			分子間力と三態の変化	○	○	○								状態変化を、熱運動モデルを用いて説明できる。
5			状態変化とエネルギー	○	○	○								反応における各種の熱を理解する。
5			物質の種類と物理的性質	○	○				○					結合の種類による物理的性質の違いを理解する。
5		第3章 気体	気体の体積	○	○	○								ボイル・シャルルの法則を用いて体積・温度・圧力の変化が計算できる。
5			気体の状態方程式	○	○	○								気体の状態方程式を用いて、物質質量を含めた量的計算ができる。
6			混合気体の圧力	○	○	○								分圧と全圧の違いを説明できる。
6			実在気体	○	○				○					理想気体と実在気体の違い、その原因を説明できる。
6		第4章 溶液	溶液とそのしくみ	○	○	○								溶解という現象を、原子モデルを用いて説明できる。
6			溶解度	○	○	○								溶解度の計算や、水和物の特徴を理解する。
6			希薄溶液の性質	○	○	○								蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下を実験を踏まえて確かめる。
6	コロイド溶液		○	○				○				粒子の種類による溶液の違いと特徴を知る。		
7	第2編 物質の変化	第1章 化学反応とエネルギー	化学反応と熱	○	○	○							熱化学方程式の原理を理解する。また熱量の出入りを計算できる。	
7			化学反応と光	○	○	○							光の出入りを伴う反応の特性を理解する。	
7		第2章 電池と電気分解	電池	○	○	○							金属のイオン化傾向を元に、電池のしくみについて理解する。	
7			電気分解	○	○	○							電気分解時に何が起こるのか予想し、実験で確かめる。	
7		第3章 化学反応の速さとしくみ	化学反応の速さ	○	○	○							反応速度をグラフを用いて説明できる。	
7			反応条件と反応速度	○	○	○							反応速度に影響を与える物理量について把握する。	
7			化学反応のしくみ	○	○	○							活性化エネルギーを用いて、化学反応の原理を説明できる。	
8		第4章 化学平衡	可逆反応と化学平衡	○	○				○				可逆反応の意味合いと仕組みを知る。	
8			平衡状態の変化	○	○				○				化学反応における平衡状態を理解し、条件の変化における平衡の移動を知る。	
8			電解質水溶液の化学平衡	○	○				○				水溶液における平衡を元に、緩衝液などの特徴を説明できる。	
9	第3編 無機物質	第1章 非金属元素	元素の種類と周期表	○	○				○				非金属元素について、その単体や化合物の性質を知り、化合物については	
9			水素	○	○				○				化学反応式を理解し書ける。	
9			希ガス元素	○	○				○				また、実生活でどのように利用されているかを知る。	
9			ハロゲン元素	○	○				○					
9			酸素・硫黄	○	○				○					
9			窒素・リン	○	○				○					
9			炭素・ケイ素	○	○				○					
10		第2章 金属元素(I)	アルカリ金属元素	○	○				○				各典型金属元素について、その単体や化合物の性質を知り、化合物については	
10			2族元素	○	○				○				化学反応式を理解し書ける。	
10			アルミニウム・亜鉛	○	○				○				また、実生活でどのように利用されているかを知る。	
10			スズ・鉛	○	○				○					
10		第3章 金属元素(II)	遷移元素の特色	○	○				○				各遷移金属元素について、その単体の性質や化合物の性質を知り、	
10			鉄	○	○				○				他の元素とどのような反応をするかについて理解を深める。	
10			銅	○	○				○				また、実生活でどのように利用されているかを知る。	
10			銀・金	○	○				○					
10			クロム	○	○				○					
10			マンガン	○	○				○					
10			金属イオンの分離	○	○				○					

11	第4章 有機化合物	第1章 有機化合物の分類と分析	有機化合物の特徴と分類	○	○	○	○	○	有機化合物の表記法と共通する特徴を理解する。
11			有機化合物の分析	○	○	○	○	○	分析手法を知る。
11		第2章 脂肪族炭化水素	飽和炭化水素	○	○	○	○	○	飽和炭化水素化合物の種類を理解する。
11			不飽和炭化水素	○	○	○	○	○	不飽和炭化水素化合物の名称と特徴を知る。
11		第3章 アルコールと関連物質	アルコールとエーテル	○	○	○	○	○	各構造体に共通する性質を知り、化学反応における特徴を理解する。 また、化学反応結果を元に、含まれる化学物質を推察できる。
11			アルデヒドとケトン	○	○	○	○	○	
11			脂肪族カルボン酸と酸無水物	○	○	○	○	○	
11			エステルと油脂	○	○	○	○	○	
12		第4章 芳香族化合物	芳香族炭化水素	○	○	○	○	○	芳香族炭化水素化合物の表記法を理解し、各構造体に共通する性質を知る。
12			フェノール類	○	○	○	○	○	また、化学反応結果を元に、含まれる化学物質を推察できる。
12			芳香族カルボン酸	○	○	○	○	○	適切な手法で実験を行うことができる。
1			芳香族アミンとアゾ化合物	○	○	○	○	○	
1			有機化合物の分離	○	○	○	○	○	

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	化学ベーシック	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法																			
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもとめ、授業の取り組みや課題提出状況などを総合的に評価します。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																		
担当者から	化学は身近にある様々な物質と関連しているので、現代に生きる人間としての常識としても重要です。数値計算が多くてできますから、授業で十分な理解ができるよう日々の復習にも励んでください。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8			
4	第1編 物質の構成と化学結合	物質の構成	混合物と純物質	○	○		○						今後の学習に向け、純物質とそれらの混合物の違いを認識する。	年4回の定期考査 実験の際のレポート 小テスト ノートの記載内容 などを元に評価する。
4			物質とその成分	○	○		○						基本粒子としての原子を理解し、周期表について学習する。	
5			物質の三態と熱運動	○	○		○						物理変化と熱運動の関係を理解し、名称を覚える。	
5		物質の構成粒子	原子とその構造	○	○			○					原子構造について知り、与えられた情報から質量数や電子数などを求められるようになる。	
6			イオン	○	○			○					代表的なイオン式を覚え、規則性を理解する。	
6			周期表	○			○	○					周期表の成り立ちとそれらの分類について理解する。	
6		粒子の結合	イオン結合とイオンからなる物質	○	○					○			イオン結合の特性と法則を知る。	
7			分子と共有結合	○	○					○			共有結合と電子の関係を知り、構造式の書き方を理解する。	
7			分子の極性と分子間にはたらく力	○	○					○			分子の構造により極性が現れることを理解する。	
8			共有結合の物質	○	○					○			共有結合からなる物質の特徴を知り、幾何学的な面からその理由を考える。	
8			金属結合と金属	○	○					○			金属結合の特性を学び、あわせて半導体などの活用を知る。	
9		第2編 物質の変化	物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量	○	○	○							
9	物質質量			○	○	○							物質質量の概念を理解し、各種数値の換算ができるようになる。	
10	化学反応式と物質質量			○	○			○					化学反応式の組み立てができる。また、質量・体積・物質質量などの量的関係を扱えるようになる。	
10	酸と塩基の反応		酸・塩基	○			○	○					各定義から、酸と塩基の分類ができるようになる。	
11			水の電離と水溶液のpH	○			○	○					水の電離度を元にしたpHの概念を理解する。	
11			中和反応	○				○	○				中和反応について、酸・塩基の濃度の量的関係を扱えるようになる。	
12	酸化還元反応		塩	○				○	○				中和反応の結果生じる塩について、分類と特性を知る。	
12			酸化と還元	○	○					○			酸化と還元概念を理解し、同時に起こる事を知る。	
12			酸化剤と還元剤	○	○					○			反応式を元に、酸化剤・還元剤の分類ができるようになる。	
1			金属の酸化還元反応	○	○					○			金属における酸化還元反応を元に、イオン化列を理解する。	
1			酸化還元反応の利用	○	○					○		電池に代表される、身のまわりの酸化還元反応の現象を考える。		

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	物理研究	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法	実験を中心に、身の回りの現象を物理的視点でとらえる。 現象の認知だけでなく、計算も含めてその本質を見極める。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をふまえ、授業の取り組みや課題提出状況などを総合的に評価します。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																	
担当者から	物理基礎および、物理の内容を踏まえて、より実践的な内容を学習します。 実験の際には、内容に応じた独自の工夫を求めます。日常生活に絡めて物理現象を理解しましょう。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8		
4	1 力学	物体の運動	力と運動の法則		○		○	○				古典力学の実験を通して、物理現象を理解する。 また、計算値とのずれを認識し、その原因を考察する。	授業への取組 実験の際のレポート 小テスト ノートの記載内容 などを元に評価する。
4			力学的エネルギー		○		○	○					
5			平面運動		○		○	○					
5			剛体		○		○	○					
6			運動量保存		○		○	○					
6			円運動と単振動		○		○	○					
7	2 熱力学	熱とエネルギー	熱とエネルギー		○		○	○			熱力学の実験を通して、物理現象を理解する。 また、計算値とのずれを認識し、その原因を考察する。		
7			気体の法則		○		○	○					
8			気体の内部エネルギー		○		○	○					
8	3 波	波の性質	波の性質		○		○	○			波の実験を通して、物理現象を理解する。 より理論値に近い実験結果を得られる工夫を行う。		
9			音波		○		○	○					
9			光波		○		○	○					
10	4 電気	電流	電場と電位		○		○	○			電気回路の組み立てを通し、原理を理解する。		
10			直流		○		○	○					
11	5 磁気	電流と磁場	磁場		○		○	○			目に見えない磁場を実験を通して理解を深める。		
11			交流		○		○	○					
12	6 原子核物理	原子	放射能		○		○	○			古典力学との違いについて学習する。 最先端の物理学についてその原理を学ぶ。		
12			電子		○		○	○					
1			粒子性と波動性		○		○	○					
1			素粒子		○		○	○					

教科	科目	単位数	種別	年次	
理科	看護生物	2	選択科目	3年	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	看護・医療に関する問題について、考察し、深い学びや考え方を身に付ける。 また、看護大学、看護学校の入試問題に対応できる学力を身に付ける。																		
学習方法	プリントを使つての授業を基本とし、実験を通して実践力や考察力を磨く。 調べ学習で発見したことをまとめ、プレゼンテーションを行う。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をもとめ、 主に知識の習得度合いは単元テストで評価し、思考・判断・表現力、学びに向かう姿勢はプレゼンテーションや活動の姿勢で評価します。</p>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																	
担当者から	生物基礎では学ばなかった生物分野の基礎的内容を学びつつ、実験やプレゼンテーションなど様々な活動を通して、生物を深く学びます。 調べ学習や発表を通して実践的な力を身につけるよう、積極的に学んでください。 プリント授業をしますので、ファイルを用意してください。また資料として生物図表を使います。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8			
4	遺伝	1. 遺伝の法則	1. 遺伝形質について	○		○							優性の法則、分離の法則、独立の法則を説明できる	授業プリント
4			2. メンデルの法則	○	○	○							二遺伝子雑種についての理解度	小テスト
5		2. 様々な遺伝	1. 複対立遺伝子	○		○		○					複対立遺伝子についての理解度	実験プリント
5			2. 伴性遺伝	○		○		○					伴性遺伝についての理解度	前期中間考査
6			2. 課題研究	1. 課題研究活動	1. ポスター作製			○	○	○				テーマに応じてポスター作成した内容や完成度など
7			2. プレゼンテーション			○	○	○				テーマに応じたプレゼンテーションの内容や完成度など	プレゼンテーション	
8			3. 評価			○	○	○				他者評価が適切に行われたか	評価表	
9	3. 生命倫理	2. 小論文作成	1. 小論文作成①			○	○	○					小論文の型を成している、内容が的確である	小論文
9			2. 小論文作成②			○	○	○					小論文の型を成している、内容が的確である	評価表
10			3. 評価			○	○	○					他者評価を適切に行えたか	
11	4. 解剖学	1. 解剖実験	1. ニワトリの頭部、手羽先	○				○	○				基礎知識の習得、実験への取り組み姿勢	プリント
11			2. ブタの腎臓、心臓	○				○	○				基礎知識の習得、実験への取り組み姿勢	
11			3. ブタの頭部、など	○				○	○				基礎知識の習得、実験への取り組み姿勢	
12	5. 環境学	1. 自然災害	1. 地球温暖化		○	○					○	興味・関心・意欲の向上度合い	プリント	
1			2. 環境保全		○	○					○	興味・関心・意欲の向上度合い		